事　例　集

地域福祉ネットワーカーの活動事例　　〔検証・評価シート 1-(1)-②、3-(1)-②〕

●事例１　気になる父子家庭姉妹●

自分達でご飯を作って食べている父子家庭の姉妹

※食事はコンビニばかり。※父親は困りごとなし。

地域福祉ネットワーク会議の開催

（婦人会長・民協会長・主任児童委員・小学校教頭・保健師・児童館長）

・自分でできる力を付ける
・地域の大人に気軽に相談できるように
・同様の負担がある児童が他にもいるのでは？

⇒　料理クラブの開催決定

「浜山こどもクッキングクラブ」の実施

☆毎月第３金曜日に開催（H29.1～）
☆ふれあいのまちづくり協議会主催で実施（H29.4～）

①中高生のお兄さんお姉さんと勉強
②婦人会のみなさんと一緒に調理
③みんなでいただきます！

取り組みの意味：個別支援が必要な児童（世帯）を新たに見付ける＝「把握する場」

●事例２　複合的な課題をかかえる世帯●

母親（４４歳）、息子（特別支援学校　高１）、娘（小５）

※家内にコバエが飛び、ゴミ屋敷化。　※ベランダにはごみ袋が約 40 袋。
※息子が不登校で昼夜問わず暴れる。　※娘も昼夜逆転し不登校気味。
※マンション理事会からは「出て行ってほしい」と言われている。

世帯支援会議の開催　（全体２回　小会議　月１回）

（あんしんすこやか係、保護課、こども家庭支援課、こども家庭センター、特別支援学校、小学校、民生委員・児童委員、区社協）

・世帯の状況と課題、関係機関の関わりを共有し、今後の支援の方向性と役割を確認する。

○母親「障害の疑い」　→　障害支援区分の認定をうける　→　サービスの利用
○娘　「通学の支援」　→　小学校、こども家庭支援課、保護課で毎月１回会議し、支援の方向性と役割を確認　→　友達と通学するようになる
○息子「生活の支援」　→　保健師が関わりを継続、区社協が母親への寄り添いと助言
→　放課後等児童デイサービスに通うようになる
○ゴミ屋敷化した部屋　→　母親と子ども達と一緒に少しづつ片付け、子どもが自分の事は自分でできるように環境を整える。（主任児童委員、ＮＰＯの協力）
○マンション理事会　→　苦情はなくなり、自転車置き場に自転車を置く許可をもらう。
○母親「居場所づくり」→　地域の居場所カフェでスタッフとして活躍中

取り組みの意味：社会的な孤立の防止＝「地域とつながる場」、「役割をつくる場」

地域団体と行政との協働事例

〔検証・評価シート 2-(2)-②、2-(3)-①〕
※協働と参画のプラットホーム通信第 73 号より

世代間交流事業「わくわくカーニバル北神」
―NPO法人S-pace　×　北区保健福祉部北神保健福祉課―

「NPO法人S-pace」と「北区保健福祉部北神保健福祉課」との協働により、世代間交流事業「わくわくカーニバル北神」が開催されています。主任児童委員・子育てサークル・児童館・中高生・子育てボランティア等、地域の子育てを応援する関係者が集まり、地域の親子や高齢者との世代間交流を通して地域社会全体で子育てを応援していくことを目的に、平成23年度から開催されています。

開催に当たって、子育てサークルを中心に実行委員会を立ち上げ、参加してくださる親子に楽しんでもらえるような内容の検討を重ねられています。

昨年度は、ゲームコーナー（輪投げ、ボウリング、バイキンホイホイ等）、工作コーナー（動物帽子、紙コップ相撲、万華鏡等）、読み聞かせ、パネルシアターなどの様々なコーナーが集う第1部では親子で約480人、ファミリーコンサートを行う第2部では親子で約340人の方々が参加されています。

今回は、参加者のアンケート、協働の効果をご紹介するとともに、協働するNPO法人の方からコメントをいただきました。

主任児童委員による輪投げコーナーの様子

○参加者のアンケート

・参加することでリフレッシュすることができた。
・こどもの成長を改めて感じることができた。
・こどもの遊び方や育児の情報を知ることができた。
・他の保護者と交流の機会となった。
・地域の子育てサークルやこどもサポーター、地域子育て応援プラザ北神など子育て支援機関を知ることができた。

イベントコーナーの様子

○協働の効果

市　NPOのつながりを活かして多様な地域関係者が実行委員として参画することで、地域主体の活動になり得やすい。

NPO　ユースステーション北神に併設されているキッズステーションの有効活用が図れ、地域に根ざした子育て支援の啓発につながる。

ファミリーコンサートの様子

[NPO法人S-pace連絡先]（ユースステーション北神連絡先）
TEL 078-597-6788 e-mail youth_hokushin@lion.ocn.ne.jp
[神戸市北神保健福祉課連絡先]
TEL 078-981-1748 e-mail hokushin_kodomo@office.city.kobe.lg.jp

NPO法人S-pace　理事長　越智正篤さん

北神区民センター3階にあるユースステーション北神内のキッズステーションを通じ親子でホッとできる居場所を提供しています。わくわくカーニバルに参加することで明日からの子育ての一助となれるよう関係者一同、力を合わせて実施します。
た～くさんの笑顔に出会える事を楽しみにしています。

※みんなでひろげるちいきのわ　地域連携事例集より

長田わいわいサロン

お店の空きスペースで教え合い。知人も笑顔も増える場所

活動の拠点

- コープ長田
  〒653-0805
  神戸市長田区片山町2-18-17
  ☎078-691-2661

関わった人たち

- コープこうべ
- コープサークル
  「長田わいわいサロン」
- 名倉あんしんすこやかセンター
  (地域包括支援センター)
- 神戸市長田区社協

地域の概要

コープ長田のある片山町は区のほぼ中央、長田神社の門前町である長田神社前地域から東寄りの丘陵地にある。近隣は、地場産業の経済成長とともに大規模な住宅開発によって造成されたが、昨今は人口減少や高齢化が顕著に。阪神・淡路大震災後に新築されたマンションには若いファミリー層も増えたが、昔ながらの顔見知りが多いなど、長年にわたって培われてきた良好な“ご近所関係”は健在。

活動のきっかけ

「この店を、モノを買うだけでなく地域の人が気軽に立ち寄れる場所にしたい」。今までにないコープの店づくりを目指したコープ長田の改装計画。2013（平成25）年、職員や組合員で連絡会議を立ち上げ、月に1～2回話し合いを始めた。

まずは地域を知るために町探検から始め、意見交換。そこで挙がったのが、「地域の人が持っている特技が発揮できる場があれば」「ちょっとした困りごとを解決できたら」という声。この声を「地域の人同士をつなぐ店としてぜひ実現したい」と形にしたのが、店内の空きスペースで住民同士が交流できるつどい場「長田わいわいサロン」と、登録したメンバーが草引きや衣替えなど近隣住民の家事作業を手伝う「くらしの便利サービス」。それぞれ2014（平成26）年から始まった。長田区社協やあんしんすこやかセンターなどと情報共有しながら、活動を続けている。「くらしの便利サービス」はその後、コープ丸山でもスタートした。

活動内容とこれから

毎月第2・4火曜日の10時～11時半、店舗入り口近くで開催するサロン。参加者は、説明を聞きながら手芸を楽しみ、おしゃべりに花を咲かせる。参加は無料、講師役はできる人が誰でも。「私、編み物なら教えられるわ」「あの方、折り紙が上手だそうだから、今度お願いしてみようか」など、参加者やサロンのメンバーがそれぞれ得意なテーマを準備し、交代で教え合う。

時には、ケアマネジャーや見守り推進員などが立ち寄ることも。困りごとのヒアリングや福祉情報の提供も行っている。「誰でもしんどいことは語るのは難しいものですが、ここは話しやすい雰囲気がある。そこに専門職が加わることに価値があります」と、活動を支援する職員は話す。

組合員集会室で開いていた「ふれあい喫茶」もサロンと同じ場所に移動し、第1・3火曜日にオープン。「毎週火曜日にはあそこで何かやっているから、ちょっと行ってみようか」と、近所の住民が気軽に立ち寄れる居場所となりつつある。

この活動が生まれたプロセス

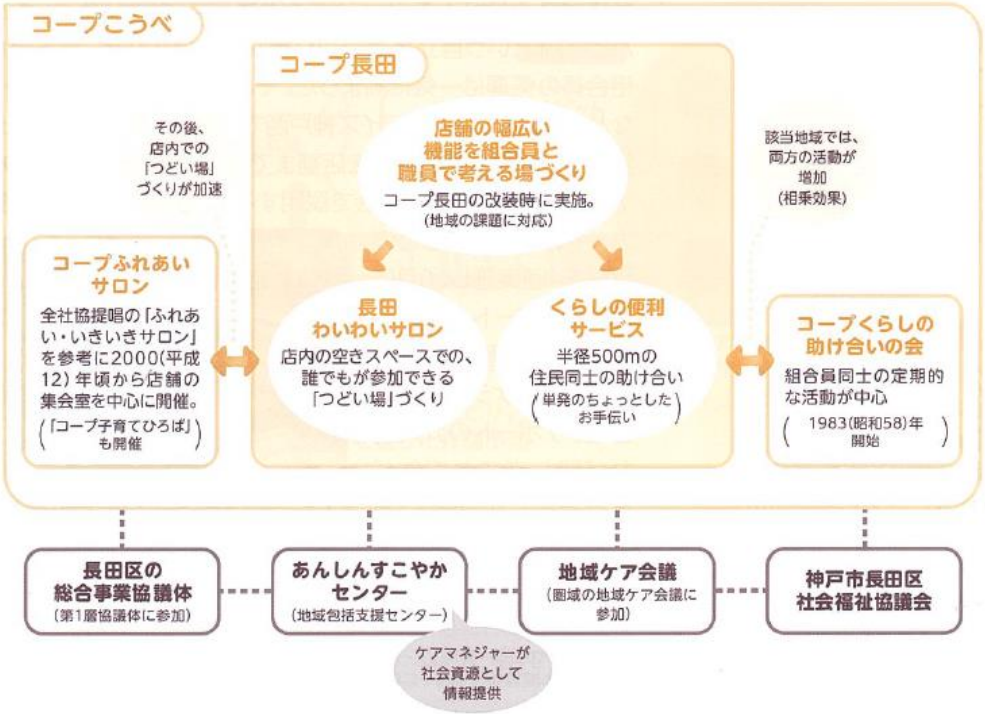
地域にとび込み「困りごと」の声をキャッチ
～組合員とコープ職員が知恵を出し合い仕組みづくり～

改装を機会に、地域住民・組合員から「地域の困りごと」の声をキャッチ、店舗の多様な機能のあり方についてボランティアと職員とが論議を重ね、二つのポイントで仕組みをつくった。

❶店内でのつどい場機能（日常の買物時に、ふれあうきっかけとなるサロンづくり）

❷近隣住民同士の助け合い機能（単発のちょっとしたお手伝い）

※あんしんすこやかセンター、高齢者施設等の地域の団体への訪問活動を通じて、「サロン」へのあんしんすこやかセンターからの参加・情報提供や、「くらしの便利サービス」を必要とする人への声掛けなどの協力をいただくようになっている。



活動者の声

手先を使っておしゃべりすれば、頭も気分もスッキリ！

毎回十数人でわいわいと過ごしています。サークルメンバーは13人ほどですが、講師役はどなたでも。ご高齢の方はテレビが相手になってしまうことが多いので、とにかく家を出て、人と会って、少しでも楽しんでほしいと始めました。話しながら手を動かすと頭も活性化しますし、作品ができあがるので喜ばれます。ここで知り合って、一緒にお出かけするようになった方も。これからも積極的にお声がけして、参加者を増やしていきたいですね。

「長田わいわいサロン」代表
尾島 博子さん

区社会福祉協議会を中核とした福祉課題への対応事例　〔検証評価シート 2-(2)-②、3-(1)-①〕

※みんなでひろげるちいきのわ　地域連携事例集より

モーニングカフェ あい♥あい

中学生の想いを形に あたたかい心が通いあう『居場所』誕生

活動の拠点

- 魚崎南地域福祉センター
  〒658-0025
  神戸市東灘区魚崎南町2-9-4
  ☎078-413-2354
  (毎月第2土曜 10時～12時頃

  モーニングセット……200円
  飲み物のみ……100円

関わった人たち

- 魚崎南ふれあいのまちづくり協議会
- 魚崎南部地区民生委員児童委員協議会
- 魚崎中学校
- 神戸市東灘区社会福祉協議会

地域の概要

東灘区の南部に位置し住吉川の両岸から東は天井川、阪神電鉄の南側に位置する。魚崎郷の酒蔵が立ち並ぶ地域だが、震災後は倒壊した蔵の跡地に大型マンションや公営住宅が立ち並ぶ、旧住民と新住民が混在する地域。

活動のきっかけ

魚崎中学校では「ハートプロジェクト」というボランティア活動が活発に行われており、担当の先生から「中学生も高齢者に関することで力になれないか」と相談があった。

中学校がある地区の民生委員・児童委員とニーズや課題を出し合い、「同じ地域で生活している高齢者と中学生がお互いを気にかけ、声をかけ、助け合える関係づくり」を目的に「居場所」を開催することとなった。

場所は地域福祉センターを活用し、高齢者だけではなく地域の障害者や子育て世代にも来ていただきたいという意見から、ふれあいのまちづくり協議会にも協力のお願いをし、実施に向けた会議を3回開催した。中学生が何を感じ、何を知ってもらいたいのかなど、それぞれの役割りや準備等を話し合った。

平成24年11月、ふれあいのまちづくり協議会が主催で、モーニングカフェあい♥あいを開催することとなった。

活動内容とこれから

「おはようございます!」中学生の明るく元気な声に迎えられ笑顔で入ってくる高齢者。受付にいる中学生にスタンプを押してもらい、メニューを言って支払いを済ます。部屋に入るとホール担当の中学生が着席する高齢者をさりげなくサポートしている。注文カードを受けとりオーダーを通す。飲み物は民生委員が準備し、パン焼きや盛り付けは中学生が行っている。セットできたものをホール担当の中学生が「お待たせしました」と高齢者のもとへ運ぶと、「ありがとう」と会話が交わされる。中学生と高齢者の視線があい微笑みあう。毎回40人ほどが集まる会場は、笑顔の花が咲き、終始なごやかな雰囲気に包まれている。

中学生は卒業していくが、地域で出会った時にはあいさつをし、声をかけあえる関係がスタッフや参加者とできている。今後は、障害者や親子連れの参加を促していきたい。

この活動が生まれたプロセス

同じ地域で暮らす中学生を大切な地域活動者に

中学生の想いを地域の中でどのように表すか。地域に根付いていくには、無理のない形にする必要がある。

①中学生の想いを民生委員・児童委員へ伝え、自分たちでできる事を考えてもらう。
- 高齢者、中学生の課題抽出と共有
- どんな地域にしたいか
- わが地域の子どもたちを地域で育む視点

↓

②中学生と一緒に、無理なく楽しみながら出来る事を企画する。

↓

③実施に向けた準備
- 中学生は高齢者を知る講座を受講（区社会福祉協議会が実施）
- 実施に向けた役割分担
- 準備物の作成・買い出し

↓

④地域の掲示板への広報を行い、地域住民へ開催のチラシを配布

↓

⑤開催
- 中学生が高齢者と関われるよう民生委員・児童委員や地域スタッフがサポート
- 終了後に反省会をし次回へ活かす

↓

⑥中学生による特別プログラムも！
- 折り紙や年末の御用聞きをしてお手伝い（灯油運びや荷物運びの依頼あり）
- 中学校の担当の先生にお願いをする。

活動者の声

地域住民が“出会い、知りあい、ふれあう場”としてオープンしました

魚崎中学校（魚崎ハートプロジェクト委員会）の生徒のかわいい接客に、皆さんニッコリされています。今年で5年目を迎え、地域にも定着してきており、今後も明るく楽しく、おしゃべりできる居場所づくりとして続けていければいいなぁ、と思っています。

ふれあいのまちづくり協議会
副委員長 田中 幸子さんと
活動者、中学生、先生

中学生の声

「接客の時に、ありがとうと言葉をかけてもらってとてもうれしいです。」
「部活もあって忙しいけれど、月に一度のこのお手伝いが楽しいです。」

パートナーシップ活動助成事例

〔検証・評価シート　1-(2)-②、2-(3)-①〕
※協働と参画のプラットホーム通信　第 76 号より

多文化・多言語“まちはイキイキきらめき”事業
ー特定非営利活動法人多言語センターFACILー

翻訳通訳をはじめ、多言語・多文化に関する企画・制作や調査提言など、神戸の多文化共生のまちづくりの一翼を担うNPO法人があります。多言語センターFACIL（ファシル）です。平成7年震災時の外国人住民への情報提供がルーツで、以来活動を続けています。

医療通訳でも全国に名を知られるFACIL。少数者も包括したまちづくりを提案します。開催中の「まちはイキイキきらめき講座」は、多言語・多文化の推進による地域活性化が主題の連続講座です。

地域の多文化共生、難民や外国人技能実習生、保育、インバウンドなどの題材から、日本でともに暮らす外国人について学びます。学生や商店主、地域住民も気軽に参加し、後日ネットでも聞けるこの講座。言葉と心の壁を超えて、豊かなまちをつくる一歩を踏み出しませんか。

［お問合せ］
ＴＥＬ：078-736-3040
E-mail：facil@tcc117.jp

FACIL　検索

連続講座第2回
「いま隣にある”難民問題”」

連続講座第3回
「外国人技能実習制度と定住化の流れ」

特定非営利活動法人多言語センターFACIL スタッフ 村上桂太郎さん

この連続講座を通して、地域に暮らす少数者が持つ多様性こそ、「まちの資源」であり豊かさとなるということや、言葉の壁、心の壁を超えて、外国人にとっても暮らしやすい地域社会こそ、観光客にもやさしい街であるとの認識を広く共有していきたいです。

〔検証・評価シート　2-(2)-④、2-(3)-①〕
※協働と参画のプラットホーム通信　第 75 号より

介護予防カフェ ーレインボーマムー

超高齢社会である日本の高齢者を支えるための介護保険は財源が非常に厳しくなってきています。

平成29年度からは予防介護サービスにおける訪問介護と通所介護が神戸市の事業に移行されます。

高齢者の介護や介護予防をすべて介護保険で賄うことは難しく、市民による自発的な取り組みが必要とされています。

レインボーマムは、平成27年度に発足しました。現在は垂水区の本多聞地域福祉センターにて、地域の高齢者向けのコミュニティカフェや歌声喫茶を行っています。

地域で徐々に浸透する中で、参加者も増えつつあり、歌声喫茶には20名以上が集まります。

また、社会福祉協議会、民生委員、あんしんすこやかセンターなどとも連携し、役割分担をしつつ、地域の高齢者を支えています。

今後は、本多聞地域だけではなく、出張型のコミュニティカフェや介護保険の制度外サービスも展開していきたいと考えています。

TEL：090-2061-3504（中節子さん（代表））

歌声喫茶の様子

自治会への出前カフェ

レインボーマム 代表 中節子さん

介護予防カフェ運営の中で、地域住民同士の支え合い活動の必要性を改めて感じております。ゴミ出し、電球の取り替え、話し相手等誰でもができる家事支援です。有償ボランティアの協力を声かけしていますが、さっぱり申し出がありません。広報の方法、システム作りなど苦戦しています。